

令和4年度 青葉区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会	1回	青葉区高齢者障害者地域会議（※青葉区での呼称）として、令和3年度から令和5年度まで3年間の共通テーマ「人のつながりを広げる取り組み～やさしさを分けあえるまちへ～」を設定。委員へ事前アンケートを実施し、キーワードを4つ抽出。会場、オンラインにて「一緒にできること」について話し合った。前向きな意見が多く出され、青葉区内の障害高齢の分野を超えて、多機関同士がつながることの大切さを再確認できた。
(2) 実務者ネットワーク会議	2回	サポネットあおばのつどい（※青葉区での呼称）①オンラインでネットワークづくりしませんか？～コロナ禍での支援のあり方を考える～（31事業所参加）②「当事者の地域生活を支える～多職種連携・弁護士より取り組み事例に学ぶ～（41事業所参加）」を実施。障害分野に捉われず、高齢分野をはじめとした区内のさまざまな支援機関へも開催を周知。事業所PR時間も交え、アンケートの結果からも満足度の高いものとなった。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	11回	話題提供、重点対象者ケースレビュー、事例検討をローテーションにて実施。毎回20名前後の参加。今年度は指定特定の相談支援事業所の参加が増え、事例の提出もあり、参加者全体で取り組む雰囲気となった。事例検討におけるGSVのルールについては毎回確認。また連絡会の場で検討・共有したことで、重点対象者の支援がスムーズに行われたことがあった。
(4) チームプロジェクト	地域展開チーム 12回	3年計画の3年目。国見地区の福祉活動連絡会議に自立協として参加したことをきっかけに、障害を持つ当事者、地域住民の幸福度向上のため自立協として何ができるかを考えるチームを発足。地道に地域関係者と関係性を築き、誰でも集える場として運動教室を実施したり、自立協として市民センターの文化祭に参加。地域住民や支援者と一緒にできることを大切に、結果として子どもから大人まで幅広い世代へ自立協、心の健康づくり、障害理解や差別解消についての普及啓発に繋がった。宮総地区については、障害分野の支援機関にヒアリングを実施。他分野・地域とのつながり持ち、相談しやすい関係を築くため、自立協として圏域会議に参加していきたい。
(5) 運営会議	12回	運営会議にて各会議体の進捗確認、方向性の検討、市自立協での報告内容等について確認。

1 今年度の主な取組み

・それぞれの会議体では感染対策をしながら、対面開催を基本に実施。オンラインを活用しながらコロナ禍であっても止まることなく、事務局全体で区自立支援協議会を運営することができた。

- ・<実務者ネットワーク会議>オンラインであっても支援者同士が悩みを共有できることで、支援者同士のネットワーク形成やセルフケアへつながった。またコロナ禍であっても支援が止まることはなく、様々な工夫をしながら行っていることを共有できた。弁護士からの講話では地域や関係機関との連携事例を通しながら、権利擁護の視点や成年後見制度についても理解が深まった。
- ・<連絡会>サービス利用に繋がっていない方でも、「青葉区に住んでいる住民」として支援に繋がることができた。参加者間で社会資源の情報共有を行い、支援に活かすことができた。
- ・<地域展開チーム>国見地区において、「貝ヶ森だヨ！全員集合 ふらっと寄りみち軽体操」を年3回実施（4回計画だったが、天候不良につき1回中止）。地域の方から当事者までつどいの場を設けることができた。宮総地域においても、障害分野の支援機関へヒアリングを実施。他分野・地域とのつながり持ち、相談しやすい関係を築くため、自立協として圏域会議に参加していきたい。
- ・<全体を通して>「青葉区高齢者障害者地域会議（※区地域ケア会議。区障害者自立支援協議会合同開催。青葉区での呼称）」との連動を意識。当会議の委員へはニュースレターを発行し、各会議体において今何を行っているのか、何を課題としているのかを年間を通して周知。当会議においても、青葉区の地域課題を考えるきっかけとした。また高齢分野の支援者に対しても、区自立協の取り組み状況を報告したり、参加を促したりなど、連携をすることは引き続き意識をして行った（障害分野の支援者に対しても同様）。
- ・<全体を通して>既存の組織体や繋がりを大切にし、新たに何かを生み出すことばかりではなく「一緒に」「参加させてもらう」ことから関わることを意識した結果、様々な場でサポネットあおばや障害分野の普及啓発を行うことができた。

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

- ・様々な場で区自立協や障害分野の普及啓発を行うことができたが、それらが区自立協のキーワードであり目的である、地域における「重点対象者」につながり、支援体制の整備が出来ているのか、アウトリーチによる相談支援ができてきているのか、今後も継続することでみえてくるのかなどが課題。障害のある方にかかわらず、既に地域にある、地域になじみがある仕組みの活用が有効であると考えられるため、その仕組みの中にどのようにして障害のある方への支援というエッセンスを加えていき、支援の共有を積み重ねていくかが課題。
- ・H31～R3年度に行った、精神保健福祉部会における「”支援者のための”振り返りシート」の有効活用ができていない。
- ・全体協議会の委員より、区自立協を含む各会議体の取り組み状況が見えないと指摘あり。今年度より「委員向けお知らせ」を発行。よりタイムリーかつ、わかりやすく区自立協の取り組みを示すためにSNSの活用を検討していきたいが、どのように運用していくか課題あり。
- ・さまざまなフォーマル/インフォーマルサービスが年々充実されて行くなかで、青葉区内でニーズはあるものの、資源が不足している障害福祉サービス等について検討を行う必要がある。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

重点的に関わる対象者へ効果的支援の届く体制作りに向け、引き続き下記の3段階に分けた体制整備を念頭に各会議体の運用に臨む。

第一次体制…重点的に関わる対象者とならないための体制づくり

第二次体制…重点的に関わる対象者が早期に支援機関につながるための体制づくり

第三次体制…重点的に関わる対象者が適切かつ継続的な支援を受けられる体制づくり

令和4年度 宮城野区区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会	1回	H30 年度より区地域ケア会議と合同開催。3 年ぶりに集合と Web のハイブリット型で実施。「本人らしい生活を継続できる地域づくり」をテーマに活動報告と意見交換を実施。
(2) 実務者ネットワーク会議	6回	① 全体会 1回 テーマ：アフターコロナのメンタルヘルス 仙台市精神保健福祉総合センターへ講師依頼し、講話とグループワークを実施。 ② エリア会 【鶴ヶ谷周辺エリア】(3回) 健康相談会(子育て・介護・心の相談)を開催。 【高砂・岩切周辺エリア】(1回) 「地域の強みを生かし、相談しやすい体制づくりにむけて」をテーマに話題提供と意見交換会を開催。 【幸町周辺エリア】(1回) 障害者の介護保険への移行支援について意見交換会を開催。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	12回	内容：相談傾向と課題の共有、事例検討・GSV・ケースレビュー、勉強会(11月：保護観察所を講師に医療観察法、保護観察、犯罪障害者との関わりに関すること。)、2月に計画相談についての座談会実施予定。
プロジェクトチーム	0回	なし
(5) 運営会議	12回	各会議体の進捗管理、課題解決に向けて区自立支援協議会全体の活動の検討を継続した。
その他の活動		なし
	回	
	回	

1 今年度の主な取組み

(1) 実務者ネットワーク会議全体会

長引くコロナ禍で当事者のメンタルヘルスの問題が懸念されていたため、地域の支援者が今後予測されるアフターコロナのメンタルヘルスの変化を知り、対応について学ぶ機会を設け、今後の活動に活かしていくことを目標に研修とグループワークを実施。コロナ禍でのメンタルヘルスの特徴や、ゲートキーパーの視点での関わりといった基本を理解した他、人によりリスク認知が異なるため、地域活動に参加時に感じる不安に寄り添うといった地域活動での支援の心得についても再認識した。

(2) 実務者ネットワーク会議エリア会（区内3エリア 鶴ヶ谷、幸町、高砂・岩切）

【鶴ヶ谷周辺エリア】

鶴ヶ谷にある手芸店店舗前にて、地域包括支援センター、家庭健康課とともに健康相談会を開催。令和3年度は1回であったが、令和4年度は3回実施。地域の関係者とつながったり、利用者の普段の生活を知ることができた等、相談対応だけではなく収穫を得ることができた。

【高砂・岩切エリア】

「地域の強みを生かし、相談しやすい体制づくりにむけて」をテーマに話題提供（障害者相談支援事業所と民生委員との協働事例）と民生委員、地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、区で意見交換会を実施。必要な人に必要な支援が届くよう、顔の見える関係づくりの場となった。

【幸町エリア】

地域包括支援センターと、障害福祉サービスと介護保険サービスの違いや、65歳のサービス切り替えの共有、意見交換を行った。移行期にある障害者が円滑に介護保険サービスの利用につながるよう、対象者にとって効果的な支援とするための有意義な意見交換ができた。

(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議

- 令和3年度に実施した触法ケースについての勉強会に引き続き、より具体的に支援のイメージを図ることや、意見交換ができることよい等の参加者からの要望を踏まえ、11月に保護観察所の方を講師に勉強会を実施。内容としては医療観察法・保護観察法の概要説明、出所者とその支援者たちを追った特集の動画を視聴、事例紹介、グループワーク。
- 次年度の勉強会の内容に反映させるため、計画相談についての座談会を3月に開催予定。

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

- 相談傾向と課題の共有にて抽出された地域課題：8050問題、チーム支援(支援のマッチング、地域や他分野との連携)、障害者の高齢化(介護保険サービスへの移行等)。様々なライフステージや障害特性における課題が散見される。宮城野区自立支援協議会として地域と共に当事者の地域生活がより良いものとなるよう、どういった活動を行っていけば良いか等整理が必要。
- 参加する区内指定特定相談支援事業所は増えたが、参加職員は限られている。活動内容をより多くの方に参加してもらえよう検討し、指定特定相談支援事業所をバックアップできる体制を強化していく。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- 今年度の実務者ネットワーク会議全体会の流れおよび、エリア会で抽出された地域課題を検証し、テーマとして掲げていく。
- 障害者相談支援事業所等連絡会議の勉強会や情報交換の内容、テーマは、引き続き参加者の意見を取り入れながら検討する。

令和4年度 若林区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議		年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会		1回	令和3年度より3か年で8050問題に取り組んでいる。昨年度の勉強会・本会議での意見交換を踏まえ、今年度実施した取組を共有し、今後の取組に関する意見交換を実施する予定であった。感染状況を鑑み、書面開催で実施とした。
(2) 実務者ネットワーク会議		1回	「障害児者とのその家族に関わる事業所間の連携強化～コロナ禍で途切れた繋がりを取りもどそう～」をテーマに、区自立協についての報告とワールドカフェ形式でのグループワークを実施し、連携促進、地域課題の発見に繋がるよう試みた。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議		10回	区自立協の土壌づくりの為、年間計画の見直し、昨年度から要望が挙がっていた事例検討・GSVの実践に向けた学び直しに取り組んだ。 区自立協について、過去の取組経過の振り返り、主任相談支援専門員による主任の役割や自立協の活用に関する講話、参加者の顔の見える・相談しやすい関係づくりを目的とした共同作業の実践（ペーパータワー作成）、GSV実践に向けてGSVの学びなおしを行うための講話やデモンストレーション、事例検討等を企画・実施した。
(4) チーム プロジェクト	GAっTSU PT	回	“学齢期から成人期への移行期における支援”をテーマに、各種会議体での2年間の取組を踏まえてPTを始動。メンバーは、地域生活支援拠点・指定特定／委託相談支援事業所・公所・区職員で構成。月1回程で集まり検討を重ねた。現状について、福祉側と学校側双方が理解し合えていないことによるすれ違いが生じている状況であると整理し、「相談し合える関係づくりを促進していくこと」を目標に掲げた。区自立協の概要と、区自立協の本取組を周知していくための媒体を作成し、各公所と特別支援学校の情報交換会にて、作成した媒体を使用して周知を実施。媒体を配布した学校への区自立協の説明、取組についての周知も進めている。
	区民まつりでの啓発活動	1回	区民まつりに合わせて障害理解、区自立協の活動PRを目的としたパネル展示、ノベルティ配布を実施。
(5) 運営会議		12回	上記各種会議体について、報告、協議を実施。
その他の活動			
		回	

※行が足りない場合は、ページ内で適宜追加してください。

1 今年度の主な取組み

これまでの課題であった「支援者の連携強化・スキルアップ」に「学齢期から成人期への移行期における支援」「8050 問題」をテーマとして加え、支援体制の整備を目標に掲げて各種会議体で連動して活動してきた。

「学齢期から成人期への移行期における支援」については、実務者ネットワーク会議(以下、NW 会議)の中で生まれたつづやきをもとに、令和 2 年度から相談支援事業所等連絡会議(以下、連絡会)・NW 会議において、課題発見・解決に向けた取組がなされ、プロジェクトチーム(以下、PT)“GA っ TSU プロジェクト”の発足に至った。連絡会や NW 会議、PT “区民まつりでの啓発活動”においては、ここ数年でニーズが高まっていた部分(GSV の再度の学びと実践、コロナ禍で直接対面での開催ができなかった部分)や連携促進に向けて企画・実施を図った。高齢分野と連動しながら令和 3 年度から 3 か年で取り組んでいる「8050 問題」は、昨年度の取組を踏まえて、事例をもとにした学びの場を設けてきた。

【連絡会】GSV 実践に向け、GSV の学びなおしを行うための講話やデモンストレーション、事例検討等を企画・実施した。年間とおした企画として整理し、顔の見える・相談しやすい関係づくりの促進、地域課題への取り組み、早期の企画による講師選定等により企画側の負担軽減、連絡会参加者が有意義に参加を進められる土壌づくりを行うための 1 年になっている。

【NW 会議】構築されてきた事業所間の繋がりがコロナの影響を受け、薄れてきているとの課題認識が挙げたことを踏まえて、区内事業所向けに、自立協の周知と共有を図ると共に、事業所間の繋がりを強固にししながら、地域課題の発見や意見交換を行えるような場づくりを計画し、2 月に実施。

【PT “区民まつりでの啓発活動”】区民まつりへの区自立協として参加を、3 年ぶりに実施。障害理解の促進、自立協 PR を目的としたパネル展やノベルティの配布を企画し、来場者への普及啓発活動を実施。

【学齢期から成人期への移行期における支援】これまでの取組を踏まえて今年度より PT “GA っ TSU プロジェクト”として始動。メンバーは、地域生活支援拠点・指定特定／委託相談支援事業所・公所・区で構成。月 1 回程集まり、検討を重ねた。現状は、福祉側と学校側が理解し合えていないことによるずれ違いが生じている状況であると整理し、双方が相談し合える関係づくりを促進していくことを目標に掲げた。区自立協と本取組を周知していくための媒体を作成、各公所と特別支援学校の情報交換会にて、作成した媒体を使用して周知を実施。特別支援学校へのヒアリングも視野にいれながら、今後の展開を検討している。

【8050 問題について】区自立協・区地域ケア会議全体協議会、自立協連絡会・地域包括支援センター連絡会合同開催の場にて、3 か年で取り組んでいる。今年度は、8050 問題と相談先を周知するチラシの作成、民生委員児童委員への配布を実施(R4 3 地区)。また、既存の連坊地区の相談会へ試行的に障害側(区と委託事業所)が参画するなど、地域レベルでの連携も実働へと繋がっている。連絡会の合同開催にて、8050 問題への支援連携事例を取り上げて、協働支援についての理解を深める機会を設けた。全体協議会(書面開催)において、地域での取組に関する共有と今後の取り組みに関する共有を図った。

2 現状における課題(地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など)

GSV を実践しつつ、技術の習得・向上が課題として挙げられていると考えられる。また、より多くの相談支援事業所の相談員が参加・相談しやすい場づくりを意識して取り組んでいけるとよいか。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

連絡会において、GSV も事例を積み重ねながら、参加者のニーズを汲み上げ、企画を検討していけるといいか。GA っ TSU プロジェクトは、今年度の振り返りを踏まえて今後の動きをチームメンバーと検討していけるといいか。その他の NW 会議等は、今年度の振り返りをもとに企画を検討していく。

令和4年 太白区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況 (R5.3 見込み)

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・委員が所属する各団体の地域での取り組みを紹介 ・太白区丸ごと相談事業の報告
(2) 実務者ネットワーク会議	19回	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理、食生活や栄養指導、性教育について ・障害故に買い物が自由にできないことについて ・地域生活を理解するための研修（当事者と企画）
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	11回	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている事例の共有 ・指定特定相談支援事業所との情報交換会
(4) チームプロジェクト	○○○○PT	回
	○○○○PT	回
	○○○○PT	回
(5) 運営会議	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者ネットワーク会議（3エリア）の報告 ・各部会の報告 ・相談支援事業所等連絡会の進め方
その他の活動		
岩沼支援学校との情報交換会	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・太白区の現状について ・学校の卒後支援の現状について ・卒業後に向けた支援の連携について
	回	

1 今年度の主な取組み

○相談支援事業所等連絡会議

- ・委託相談支援事業所と指定特定相談支援事業所とで「情報交換会」を3回開催し、個別支援だけでなく事業所運営なども含めた情報交換を行っている。
- ・毎月開催している連絡会議では各機関から事例を出し、参加者からの助言をもらえるようにしている。今年度より家庭健康課も参加しており、子どもが同居している世帯や子どもに障害がある世帯の事例に助言をもらえるようになった。

○実務者ネットワーク会議

1) 八木山・愛宕橋・西多賀・山田・茂庭・山田エリア

- ・オンラインにて、各事業所間で事例の共有や意見交換。
- ・8050問題、介護人材不足等の地域課題についても話し合う機会となった。

2) 富沢・長町・郡山エリア

- ・買い物課題がある事例を抽出し、3名の当事者や家族に聴き取りを行った。
- ・研修「当事者から学ぶ 地域生活の支援」を当事者講師と共に企画し、3回連続の研修を実施。支援する・支援される関係について考える機会となった。
- ・丸ごと相談事業として、郡山地域包括支援センターが主催しているサロンに参加、障害者福祉センターから講師派遣。買い物課題のワーキンググループへの参加。

3) 袋原・中田・四郎丸エリア

- ・民間団体・企業で活動内容や困りごとを共有し、利用可能な社会資源や情報交換の機会とした。
- ・丸ごと交流サロンの事業の中で、圏域内の障害福祉サービス事業所4か所が高齢者サロンへの参加・就労継続支援事業所B型の商品販売を実施。障害者の地域交流の機会とした。
- ・丸ごと相談事業として、相談会を開催。また、町内会のサロンに出張相談に出向き、支援者のネットワークが強化された。

○その他：岩沼支援学校高等部との情報交換会

主に以下の情報や意見を交換した。

- ・委託相談支援事業所、南部アーチル、太白区障害高齢課の業務内容や役割について。
- ・支援学校内の障害手帳取得状況、卒後支援の仕組みについて。
- ・高等部卒業後の相談先について。

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

- ・太白区自立支援協議会の目標「本人や地域を含めた話し合いの場（個別ケア会議）を推進していく」が達成できていない。達成のためのプロセスも不明確である。
- ・様々な課題が挙げられているものの、地域課題として整理したり、解決に向けて取り組むことができていない。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・現状と課題を参加しているすべての機関と共有し、各会議体の目的と進め方や、地域課題の解決に向けたプロジェクトチームの立ち上げを検討する。

令和4年度 すりいはんず(太白区実務者ネットワーク会議)主催研修

「当事者から学ぶ 地域生活の支援」

「すりいはんず」は太白区の長町・郡山・富沢地区で「障害者等の地域生活上の課題を確認し、その解決を図る」ために活動している会議体です。

今年度は、3回連続の研修会を開催します。生活の困りごとを解決するために、地域でどのようなことができるのかを考えます。

また、「支援する－支援される」関係とは? 「自立」とは? など分かっているようでモヤモヤしがちな支援の土台を、当事者と一緒に考えていきます。答えは出ないかもしれませんが。みんなで迷ったり悩んだりすることが目的の研修です。

できるだけ、3回全てにご参加ください。

日時	会場	内容
9月27日(火) 15時～16時半	太白区役所 5階第2会議室	当事者の講話①・グループワーク
10月25日(火) 13時半～15時	太白区役所 4階第2・第3会議室	当事者の講話②・グループワーク(前回の振り返りを含む)
11月22日(火) 13時半～15時	太白区役所 4階第2・第3会議室	当事者の講話③・グループワーク(前回の振り返りを含む)

※区役所駐車場は混雑することがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

参加対象

- ①太白区長町・富沢・郡山地区の地域包括支援センター、介護・障害サービス事業所
- ②太白区内の高齢者や障害者の支援に関わる機関(区外の機関も含む)
- ①と②併せて定員25名(先着順)

申し込み

下の2次元コードまたはURLから、みやぎ電子申請システムでお申し込みください。申し込みは9月21日まで。定員に空きがある場合は9/21以降も受け付けます。
<https://www.shinsei.elg-front.jp/miyagi2/uketsuke/form.do?id=1658818642897>



すりいはんず事務局:ハンズ太白・太白区障害高齢課

問い合わせ先: 太白区障害高齢課地域支援係

サトウ、タカギ、タカガネ

電話 022-247-1111(代表)

令和4年度 泉区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議		年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会		1回	地域ケア会議と合同で開催。令和3年度から『3か年計画』を実施。今年度は、各委員が提出した困難事例から共通する要素（キーワード）を抽出。最も多いキーワードを本会議体における泉区の地域課題（＝支援家族不在）に設定した。障害分野・高齢分野の下部会議体及び上部会議体である仙台市との連動性が課題。
(2) 実務者ネットワーク会議		6回	支援機関連携を主な目標として活動。今年度は『住まいに課題のあるケース』『親亡き後』をテーマとし、ファイナンシャルプランナーを招いた会を開催。毎回、160事業所へ案内送付しており、出席の有無等、取りまとめが今後の課題。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議		12回	支援者のスキルアップ及び地域課題抽出を主な目標として活動。今年度は『住まいに課題のあるケース』をテーマとし、各支援機関が提出した住まいに課題のある事例から共通する要素を抽出。今後の展開が課題。また、参加する事業所が固定化していることも課題。
(4) チーム プロジェクト	〇〇〇〇PT	0回	
	〇〇〇〇PT	0回	
	〇〇〇〇PT	0回	
(5) 運営会議		12回	各会議体が円滑に運営できるよう進捗管理すること、市・他区協議会との連動性を意識することを主な目標として活動。他区会議体への参加、評価研修部会・地域部会・地域生活支援拠点事業との連動性は図られたが、仙台市との連動性が今後の課題。
その他の活動			
		0回	
		0回	

1 今年度の主な取組み

- ・上記の通り。

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

- ・上記の通り。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

(1) 全体協議会について

- ・各委員に以下の流れで活動を依頼。
 - ① アンケート 1 (『地域課題解決のためにこんな支援・制度があったらいいな～ソフト面/ハード面～』
『それに対して、私は(私の事業所は、私の職能団体は) 具体的に〇〇の支援ができそう』) に記入・提出 (R5 年 2 月末締切)。3 月に障害高齢課よりアンケート結果を送付。
 - ② R5 年 4 月～7 月に、各職能団体・職場において、『3 年計画』並びに上記①アンケート結果共有。
 - ③ アンケート 2 (『職能団体・職場でこんなことをやってみました』『今後、地域課題解決に向けてこの職能団体とコラボしたい・こんな情報がほしい』) に記入。8 月末に提出。
 - ④ R5 年度全体協議会では、グループ毎に課題解決のためのコラボ事業について協議。
 - ⑤ 全体協議会后、障害分野・高齢分野の下部会議体に報告。実際のコラボ事業に参画できないか検討。上部会議体に関しては、地域部会や地域連絡会議等で『3 年計画』を報告。

(2) 実務者ネットワーク会議について

- ・出席の有無、取りまとめについては、『みやぎ電子申請サービス』を活用できないか検討。開催周知に関しては引き続きインターネットを活用。

(3) 相談支援事業所連絡会議について

- ① 『住まいに課題のあるケース』の今後の展開
 - ・今年度提出された住まいに課題のある事例について、事例検討を行う。
 - ・仙台市地域生活支援拠点事業でも課題として挙げられている、『予防的支援』『受け皿の問題(=すぐに GH から出されてしまう)』のうち、次年度は後者に視点を当て、実務者ネットワーク会議と連動しながら、GH スタッフを日中活動系事業所(例: 就労系、医療系等)で支えられないか検討。
- ② 参加事業所の固定化
 - ・指定特定事業所は職員数も少なく、多忙であるという現状がある。
 - ・これまで、相談支援事業所連絡会議を毎月開催していたが、より良い内容を検討・準備することに時間を費やし、結果的に案内を送る時期が開催日に迫ってしまい、指定特定事業所職員が直近の予定を空けられないという背景も考えられた。
 - ⇒R5 年度より、相談支援事業所連絡会議を 6 回/年とし、早目に内容の決定及び案内を送付することで、指定特定事業所が興味のある内容に参加できるようにする。
 - ・各事業所より『次年度取り組みたいこと』について意見を募った所、「連携支援の事例共有や事例検討」という意見が多かった。
 - ⇒各事業所が希望する内容を R5 年度の活動内容に盛り込む。